

「ツーろっくん」とは、北海道警察 札幌方面 中央警察署様のオリジナル防犯啓発キャラクターです。自転車のツーロックを啓発するために誕生しました。

この度、2017年4月よりツーろっくんをリニューアルすることになり、私たちクリエイティブデザイン科にデザインのご依頼を頂戴しました。

北海道警察様のご要望と致しましては、猫であることと、鍵のツーロックと **ROOK** を掛け合わせた設定はそのままで、古くなってしまったデザインを新しくして欲しいということ、ツーろっくんの持つギターはギターでなくても良く、着ぐるみを制作するため、立体化を前提としたデザインにすること、そして、老若男女誰からも愛されるデザインを考えて下さい、とのことでした。

私たちは、北海道警察様のご要望に沿って、デザイン制作に取り組み始めました。

今回のプロジェクトは、4月～10月にかけて行われました。

全体の流れと致しましては、4月に授業内でラフデザインを制作し、7月頃に候補作品の中からデザインを仮決定、9月頃には決定したデザインの修正をし、10月に制作発表会を行うというものです。

今回のツーろっくんのリニューアルをするにあたり、子猫である設定と、鍵のロックと **Rock** を掛け合わせたものであるということ以外に決まりはなく、「過去のツーろっくに捕らわれず、現代っぽく自由にデザインしてください」とのことだったので、私たちは、自分たちのイメージするツーろっくんを、各々描き出しました。候補作品は全部で13点になりました。(作品見せる)

そして私がデザインした新しいツーろっくんがこちらです。(画像見せる)

この画像は実際に最初に提出させていただいたものと同じものです。

このデザインのテーマは「帰ってきたツーろっくん 2017」です。

このデザインにはいくつかのポイントがあります。

まず1つ目のポイントは、「様々な鍵のモチーフを取り入れたデザイン」です。

色々な種類の自転車の鍵をモチーフにデザインした衣装や小物を取り入れ、ツーろっくんのキャラクター性を際立たせました。

2つ目は、「キャラクターの等身」です。

着ぐるみになること、つまり人が中に入れるサイズ感であることと、かわいらしいフォルムであることのバランスを考え、等身を **2.5** 等身に設定しました。

そして3つ目は、「子供や女性だけでなく大人の男性にも好感を持ってもらえるようなデザインにすること」です。

老若男女、幅広い年齢層の方にも支持していただけるようなデザインにしたいと思いましたので、表情やカラーに気を付けてデザインしました。

それ以外にも鍵穴の形をしたボタンホールが一つだけ猫らしく魚の形になっていたり、もともとのツーろっくんのデザインにもあった★のマークをさりげなく使用したり、ヒーローを連想するようなマフラーとベルトのデザインにしたり、耳のギザギザやピアスなどにも鍵のギザギザとキーリングの意匠を取り入れるなど遊び心とこだわりを持ってデザインを考えました。

このように色々と工夫をしてデザインを再考しましたが、あくまで元のキャラクターと同じキャラクターであるということに気を付けて、オリジナルのデザインを尊重しつつ私のこだわりを持ってデザインを制作しました。

嬉しいことに、私の作成したデザインは高い評価を頂き、採用していただくことになりました。そして、いよいよ立体化のための作業が始まります。

2017年の7月から8月にかけて、ツーろっくんの着ぐるみ制作のために、まずはデザインをブラッシュアップし完成デザインを制作しました。さらに、前後左右の4面図を制作し、ギターや衣装、小物類も細部の仕様も改めてデザインに起こしました。

(スライド見せて)

オリジナルのデザインとの比較がこちらです。

皆様、同じキャラクターだと感じていただけますでしょうか？(問いかけ)にやにや

(ここでツーろっくんを呼び込む?)

そして2017年10月10日、中央警察署様によるイベント、「平成29年全国地域安全運動『ツーろっくん』制作発表」がサッポロファクトリーにて行われました。

当日は私も表彰コメントを話す機会を頂いたのですが、大勢の前で話す機会がなかなかなかったので、大変緊張したのが印象に残っています。

イベント終了後はツーろっくと記念撮影をさせてもらい、自分がデザインしたキャラクターと記念撮影をするという貴重な経験をさせていただきました。

また、小さなお子さんがツーろっくんを見て記念撮影や握手をねだる光景に感動しました。

ツーろっくんはこれから、春の地域安全運動を皮切りに様々な防犯啓発イベントなどに登

場するほか、グッズやのぼりなどに使用され、自転車のツーロック運動促進のため活躍していく予定です。

今回のプロジェクトを通して私は、

- ・依頼主のイメージを工夫してデザインに取り入れること
- ・立体化を前提としたデザインを考えること

を経験でき、

“自分のデザインが実現することの嬉しさ”を得ることが出来ました。

私はこの経験を大切に、これからも多くのデザインを制作し、たくさんの人に幸せを届けていきたいと思っております。

最後に今回のプロジェクトにおいて、お話を下さった中央警察署の本間様、門脇様、授業のご指導を下さったやまだとろびー先生に、改めてお礼を申し上げます。

この度は誠にありがとうございました。

以上で札幌放送芸術専門学校 クリエーティブデザイン科のプレゼンテーションを終了致します。

ご清聴ありがとうございました。